

フレキシブルフェース

完成品

SR-Ⅲ180 開閉式

取扱い・施工説明書

このたび当社の製品をご利用いただき、誠にありがとうございます。





- この説明書は、専門の施工従事者を対象としています。
- 正しく安全に取り付けていただき、また安心してご使用いただくために、この説明書をご熟読の上、手順に従い施工を、行ってください。
- 注意事項を守らずに施工された場合の故障や事故については、責任を負いかねますので、よくご理解の上施工管理をお願いします。
- この説明書は、安全維持とメンテナンスのために必要です。大切に保管してください。









説明内容

1. 守っていただきたい注意点	1
2. 使用工具	2
3. 製品の概要	3
4. 本体枠の取り付け	4
5. 開閉枠の連結と取り付け	7
6. 展張	9
7. 額縁の取り付け	12
8. 水切りビードの取り付け	12
9. 結線	13
10. シーリング工事	14
11. メンテナンスについて	14
12. オプション品の使い方	15

1 守っていただきたい注意点

■ 警告表示

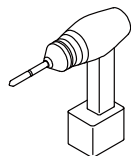
	警告	・ 重大な事故を起こす可能性があります。
	注意	・ 製品の破損や、けがをする可能性があります。
	禁止	・ 気をつけていただきたい禁止内容です。
	確認	・ 気をつけていただきたい注意事項です。

	警告	本製品は、壁面サインです。建物壁面以外での使用はさけてください。
	警告	看板を取り付ける壁面は、取り付けに耐えうるか確認していただき、強固でない場合は、胴縁等の下地を施工してください。(看板の脱落により、事故を起こす原因となります)
	警告	必ず外れ止め金具を使用してください。
	注意	看板上面、両側面の壁面側はシーリングを施し、雨水の浸入により、内部を腐食させないようにしてください。(漏電の原因になる可能性があります。)
	注意	看板取り付け位置の上部には、10cm のスペースが必要です。
	禁止	当製品の改造はしないでください。使用条件が異なると安全性の再検討が必要です。
	確認	取り付け高さは、地上より看板天端で 4.0M を守ってください。取り付け高さを越えますと、強風時に、看板、面板への影響が高まり、破損、脱落の原因になります。
	確認	電装品は 100V 低力率タイプを使用しています。200V では使用できません。 200V の場合は電装品の交換が必要です。 当地の周波数(Hz)と安定器の周波数が合っているか確認してください。 漏電による事故を防ぐため、漏電ブレーカーの設置と防水コンセントを使用してください。
	確認	フレキシブルフェースは、ガムテープ等で仮り止めの後、テンションバーにより確実に固定してください。 フレキシブルフェースに、ゆるみ・たるみが生じない様に確認してください。
	確認	テンショニング作業には、インパクトドライバーが必要です。

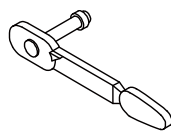
いずれも安全に関する重要な内容です、必ず守ってください。

2 使用工具

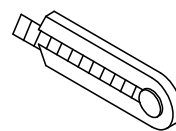
- インパクトドライバー



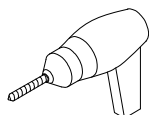
- ソケットレンチ



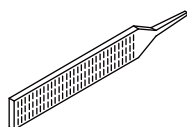
- カッターナイフ



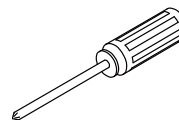
- ドリル



- ヤスリ

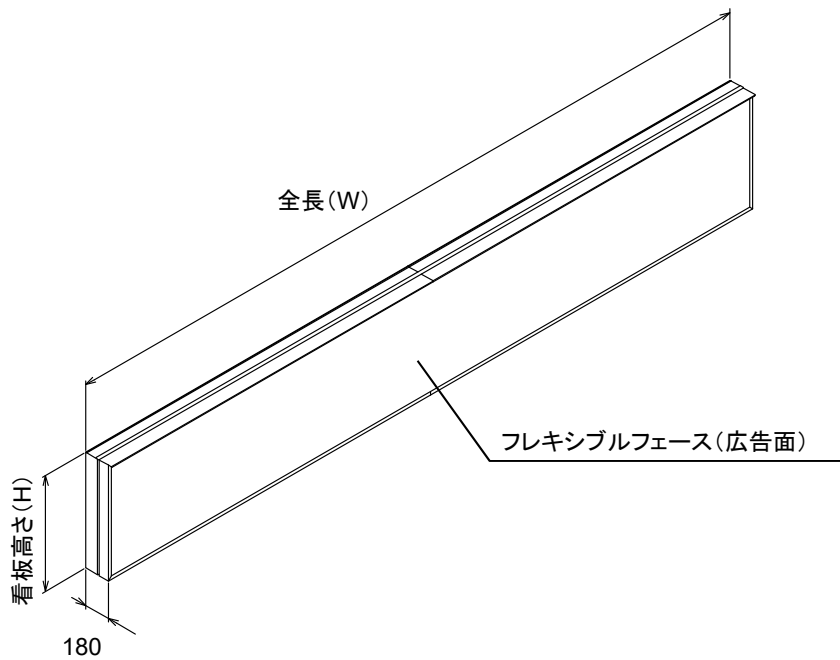


- +ドライバー

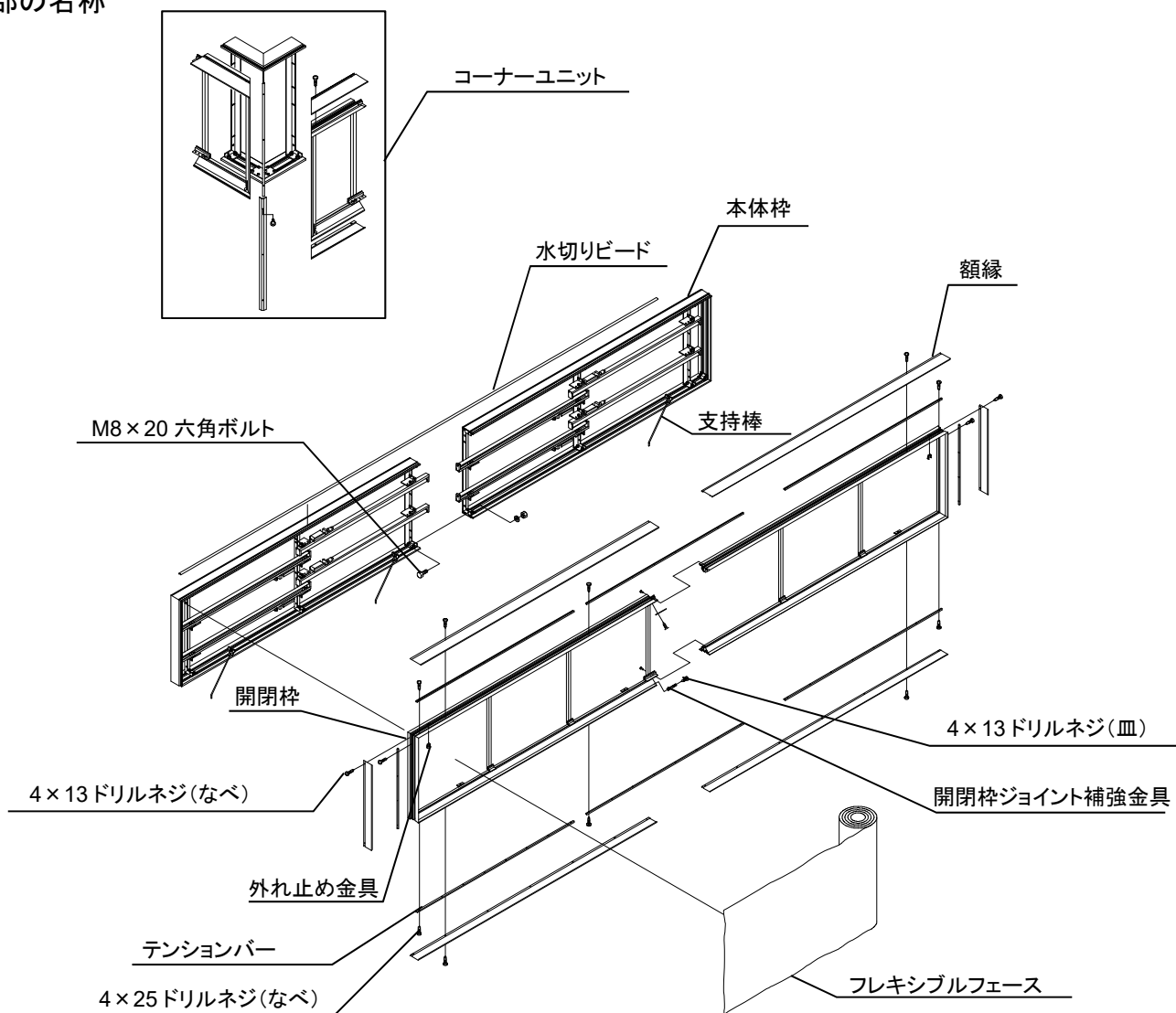


3 製品の概要

■ 完了図



■ 各部の名称



4 本体枠の取り付け

❗ 確認

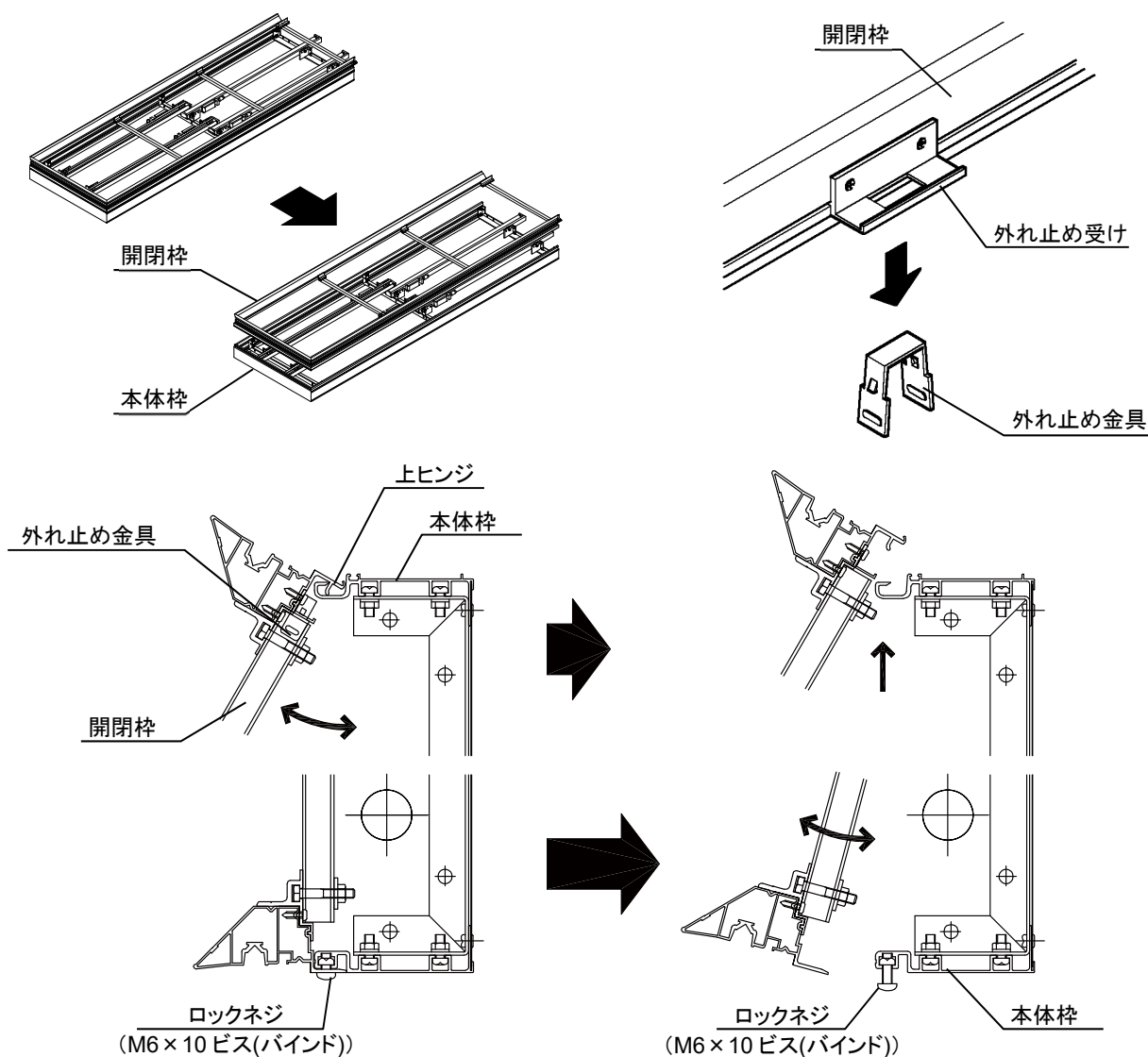
- 連結の際はフレーム同士にすき間ができないように取り付けてください。
すき間があると、光漏れ・雨水の浸入が生じ、漏電の原因になります。

【作業手順】

1. 本体枠と開閉枠の分離

- フレームを本体枠(蛍光灯入り部)と開閉枠(表示部)に分離します。開閉枠は下面のロックネジ(M6×10 ビス(バインド))と上ヒンジで固定されています。

ロックネジ(M6×10 ビス(バインド))をゆるめ、外れ止め金具を外し、開閉枠を少し開閉させ、フレームを上部方向にずらせると分離できます。



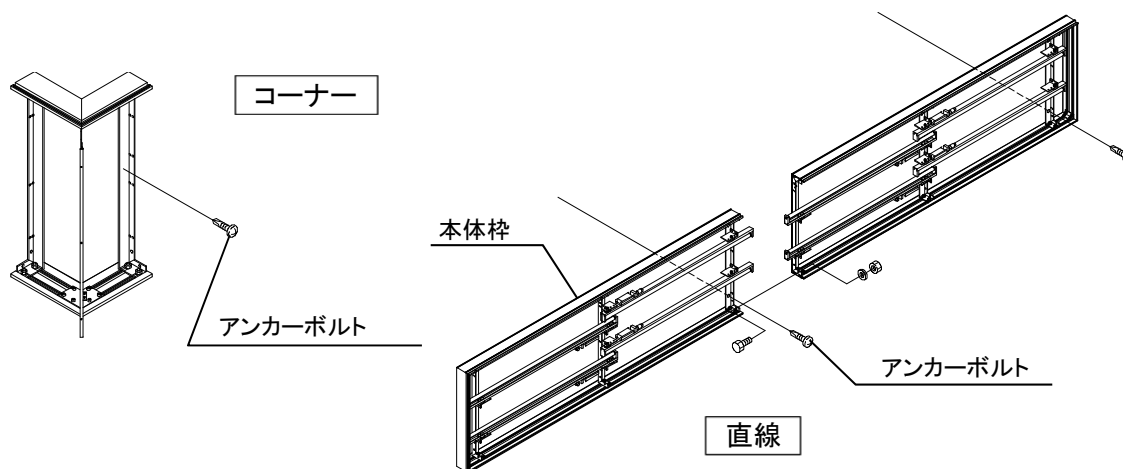
2. 結線用穴の加工

- 本体枠内部に電源コードを束ねています。一時側電源位置を確認後、本体枠側面または裏板部に結線用穴の加工をしてください。

3. 本体枠の壁面への取り付け

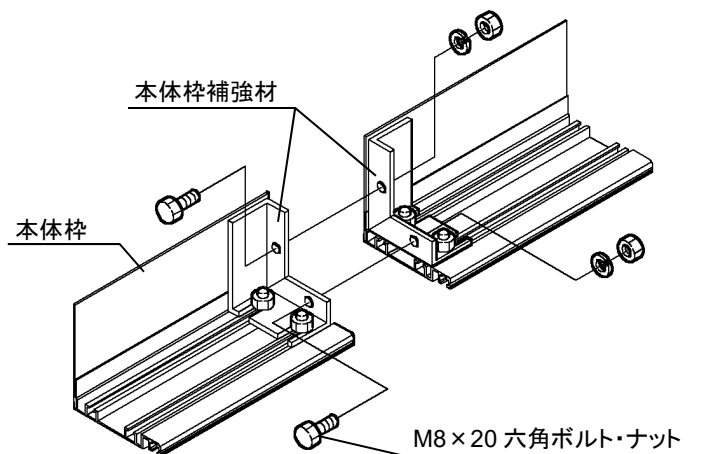
- 基準となる本体枠を取り付けます。先にアンカー位置の一カ所を墨出しに合わせて仮止めし、水平・垂直を確認してから他のアンカー位置を固定します。

(コーナーユニットを使用する場合は、コーナーユニットから順次取り付けてください)



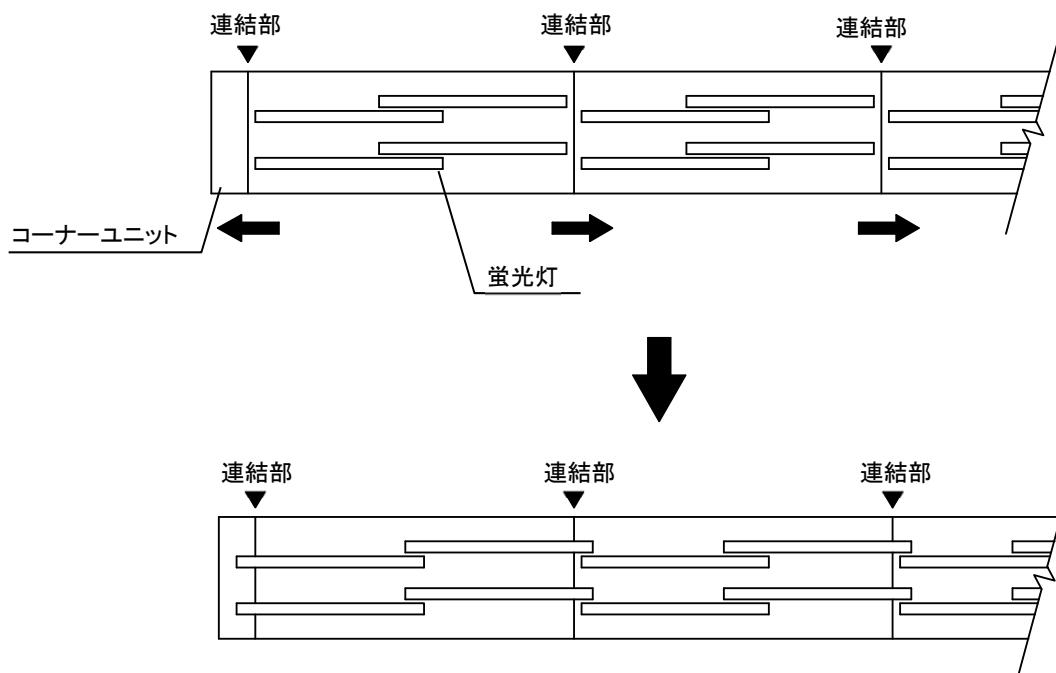
4. 本体枠の連結

- フレームがジョイント式の場合、基準となる本体枠の取り付け完了後、先に本体枠の連結を行い、壁面側を取り付けてください。連結作業は、本体枠補強材(アングル)の上下を M8×20 六角ボルト・M8 ナットにより行います。



5. 連結後の蛍光灯の移動





- 連結後、蛍光灯が重なるように移動してください。
- コーナーユニットにも蛍光灯を移動してください。



6. 確認

- フレームの傾き、ねじれおよびアンカーボルト、M8×20 六角ボルトのゆるみがないか確認してください。

■ アンカーボルトの選定

 警告	・ 取り付け下地面は、十分な強度がある事が必須条件です。強度が不足する場合や取り付け部分に下地がない場合は、胴縁等下地工事を行ってください。また、表面に凹凸面がある場合は、スペーサー等を入れ、取り付け面をフラットに仕上げてください。	
木造	・ コーチスクリュー M8×60L 以上	 確認 必ず取り付け部に耐力のある下地材がある事
鉄筋コンクリート造	・ ホールインアンカー	タイル仕上げの場合 M8 埋込深さ 50~70mm 打ち放し仕上げの場合 M8 埋込深さ 30~40mm
	・ ケミカルアンカー	M8 寸切りボルト窟孔深さ 70mm 以上
鉄骨+ALC 外壁	・ M8 貫通ボルト 裏面には座金を入れる事	 注意 ALC 板は吸水性が大きいため防水処理を確実にする
鉄骨+スパン外壁	・ セルフドリルネジ<テックス> M6×25~35mm フレーム側に ワッシャー等を入れる事	 確認 必ず取り付け部に下地材がある事

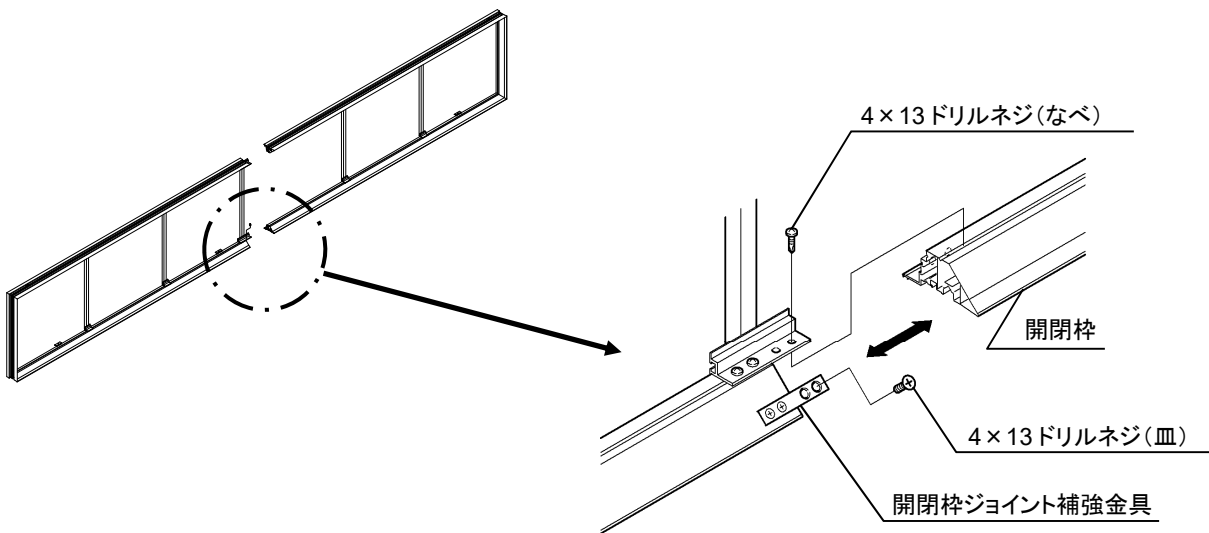
5 開閉枠の連結と取り付け

❗	確認	<ul style="list-style-type: none"> 開閉枠のロックネジ(M6×10ビス(バインド))は+ドライバーを使い、しっかりと確実に締めてください。締め付けが弱いと、強風時に開閉枠が開く場合があります。
❗	確認	<ul style="list-style-type: none"> 開閉枠と本体枠は、上ヒンジでしっかりととはめ合わせてください。はめ合わせが悪いと、開閉枠の落下や雨漏り・漏電の原因となります。
⚠	注意	<ul style="list-style-type: none"> ジョイント突き合わせ部に、すき間、ずれがあると、フレキシブルフェースの破損、光漏れ等の原因となります。

【作業手順】

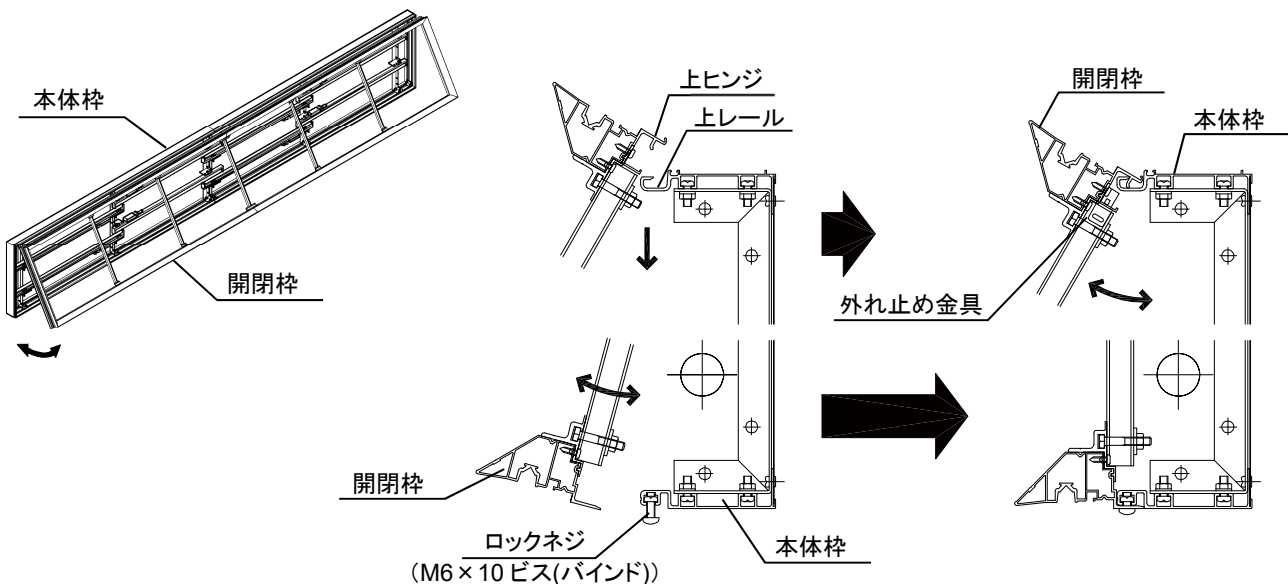
1. 開閉枠の連結

- 開閉枠のねじれや寸法を調整した後に、となりあう開閉枠を、開閉枠補強材(ジョイント用)および、開閉枠ジョイント補強金具にて、4×13ドリルネジを使用して連結します。



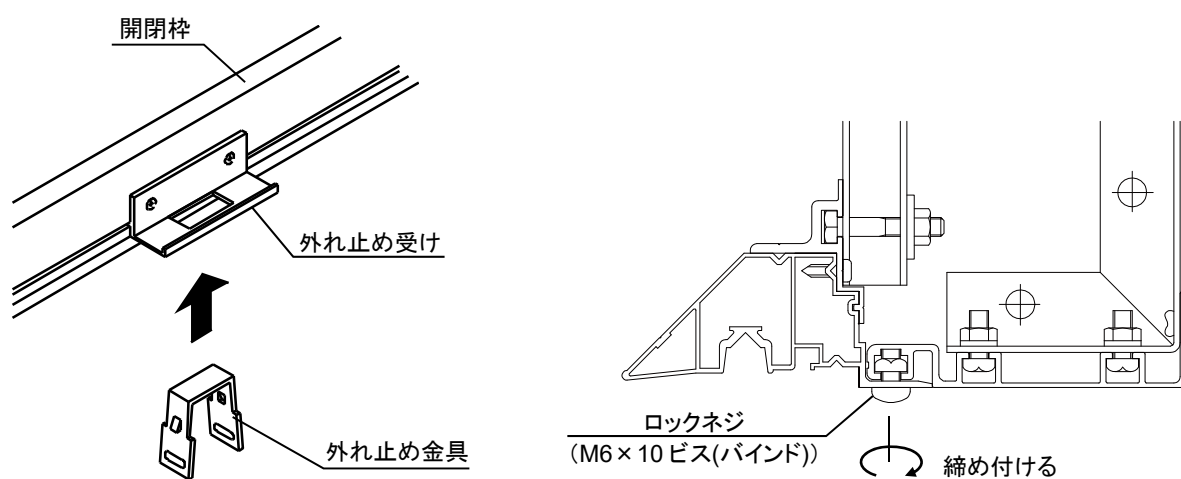
2. はめ込みの確認

- 開閉枠の取り付け位置を確認し、開閉枠の上ヒンジ部分を本体枠の上レールにはめ込みます。2~3回開閉テストを行い、はめ込みが完全かを確認してください。



3. 外れ止め金具の取り付け

- 外れ止め金具の取り付けを行います。





4. ロックネジ(M6×10ビス(バインド))の締め付け

- 開閉枠を閉じて+ドライバーを使い、ロックネジ(M6×10ビス(バインド))をしっかりと締め付けてください。

6 展張

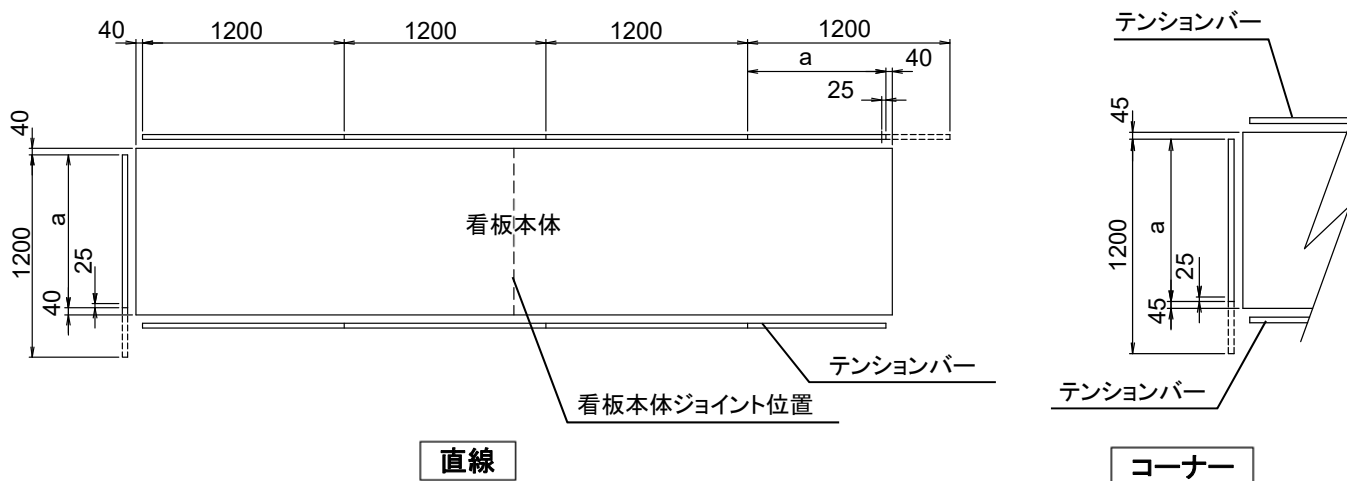
フレキシブルフェース張りは通常、開閉枠を地上に置いた状態で行いますが、展張に十分なスペースがない場合は、壁面に設置された本体枠に開閉枠を取り付けて行います。
 (コーナーユニット使用時は開閉枠を地上に置いた状態で行ってください)

	確認	<ul style="list-style-type: none"> テンションビス(4×25ドリルネジ)の挿入は基本的に、下穴加工の必要はありませんが、挿入しづらい場合、ドリル(φ3程度)にて下穴加工を行ってください。
	注意	<ul style="list-style-type: none"> 展張後の開閉枠をひねると、フレキシブルフェースがたわみ、しわの原因になります。

1. テンションバーの準備

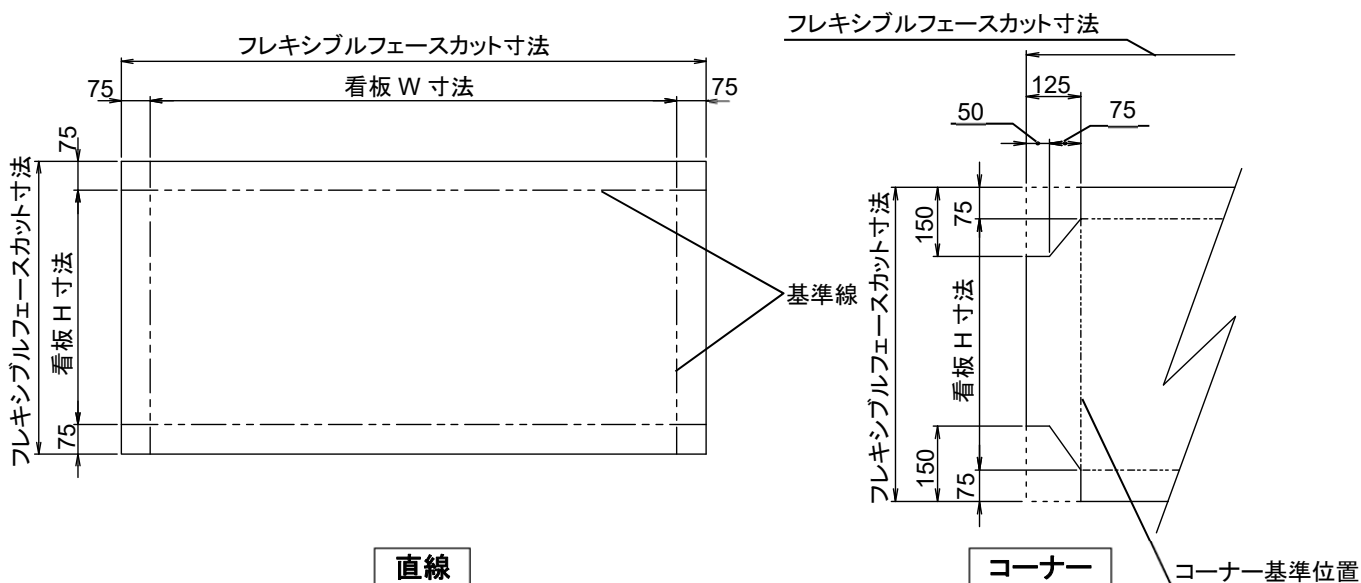
- 「テンションバー」は、1本 1200mm の長さの物が、必要本数用意されています。
- 「テンションバー」は、両端 40mm あけて全面を押えます。

長さの調整は、両端 40mm あけてカットし、端から≒25mm の位置にφ4.5 穴を追加してください。



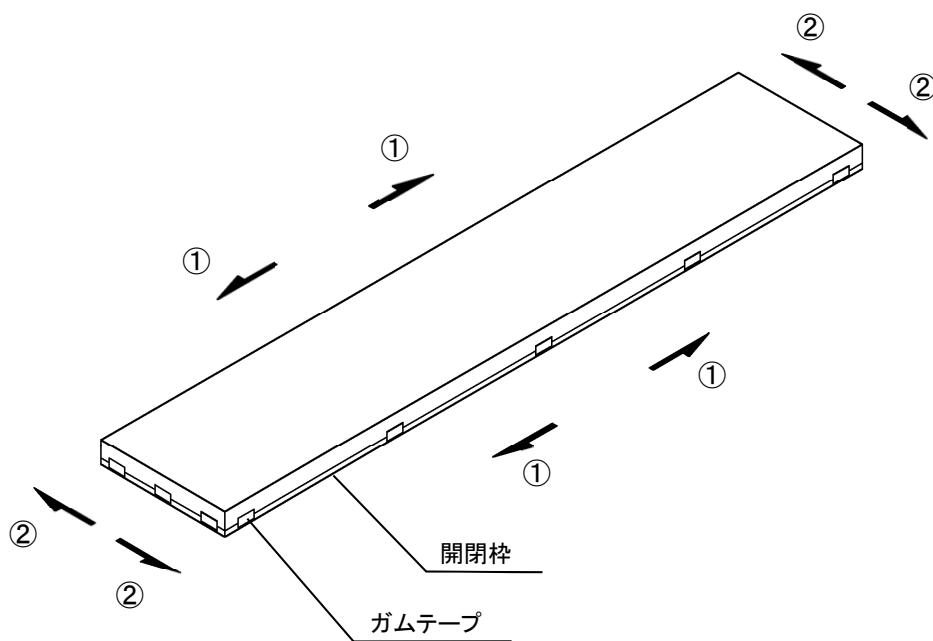
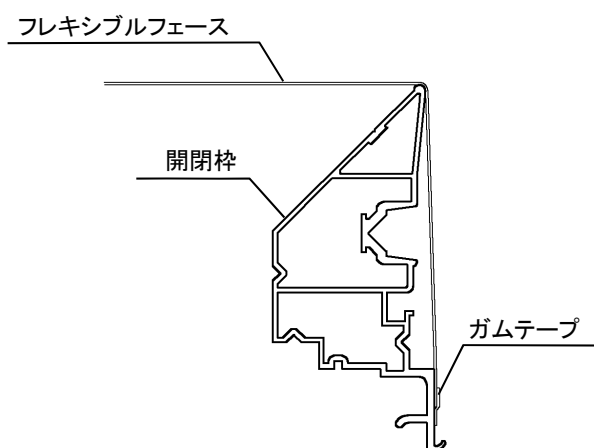
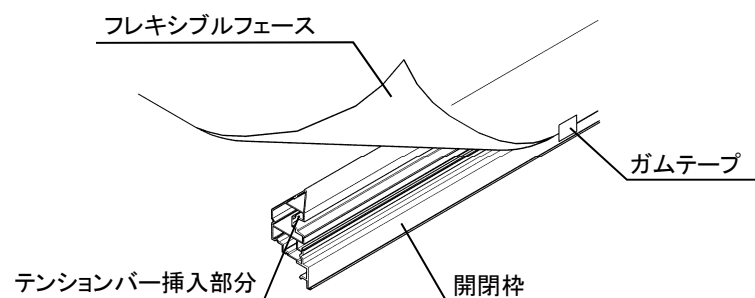
2. 基準線の線引き

- フレキシブルフェースの端から周囲 75mm の位置が看板サイズ(基準線)となります。意匠の加工または、テンショニング作業簡略化のため、線引きをすることをお勧めします。



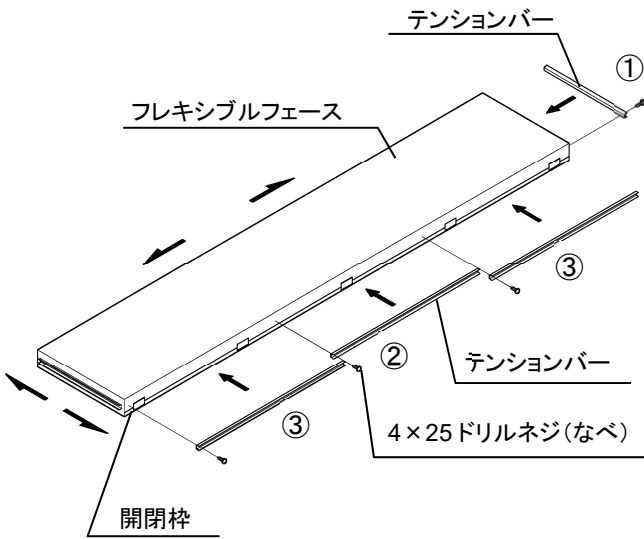
3. 仮り止め

- フレキシブルフェースを開閉枠に展開し、ガムテープで周囲を固定します。
このとき、ガムテープがテンションバーの挿入部分にかからないようにしてください。

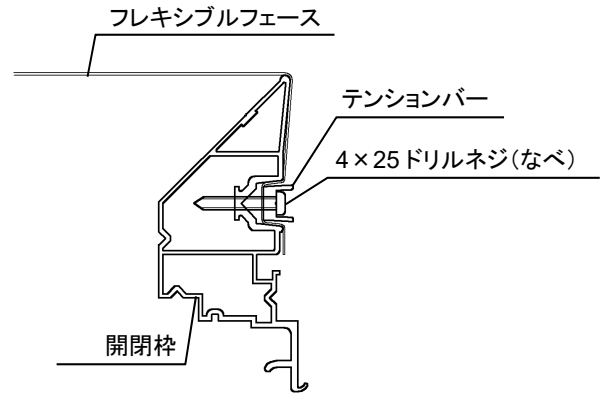


4. 仮締め

- テンションバーは、短辺側センターより両サイドへ向って、テンションビス(4×25 ドリルネジ)により仮締め作業を行います。長辺側も同様にセンターより両サイドへ向って行ってください。

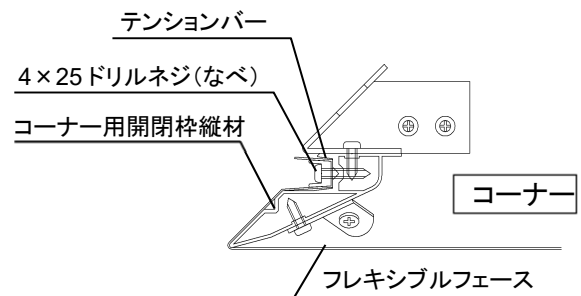
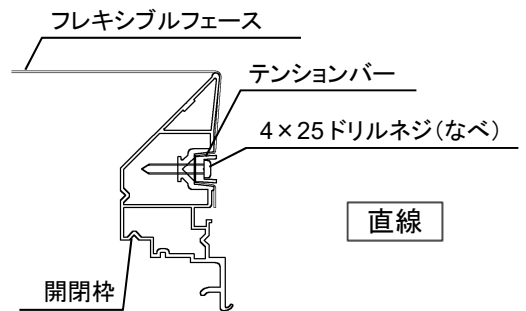
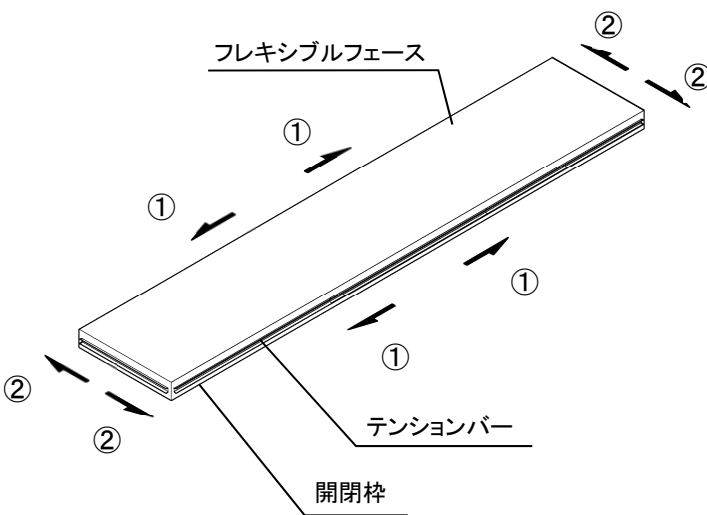


- 仮締めはテンションバー挿入の半分程の位置で、止めてください。



5. 本締め

- テンションバーの、短辺側および長辺側のセンターより両サイドへ向って、しっかりと4×25 ドリルネジ(なべ)を本締めし、テンションバーでフレキシブルフェースを固定してください。

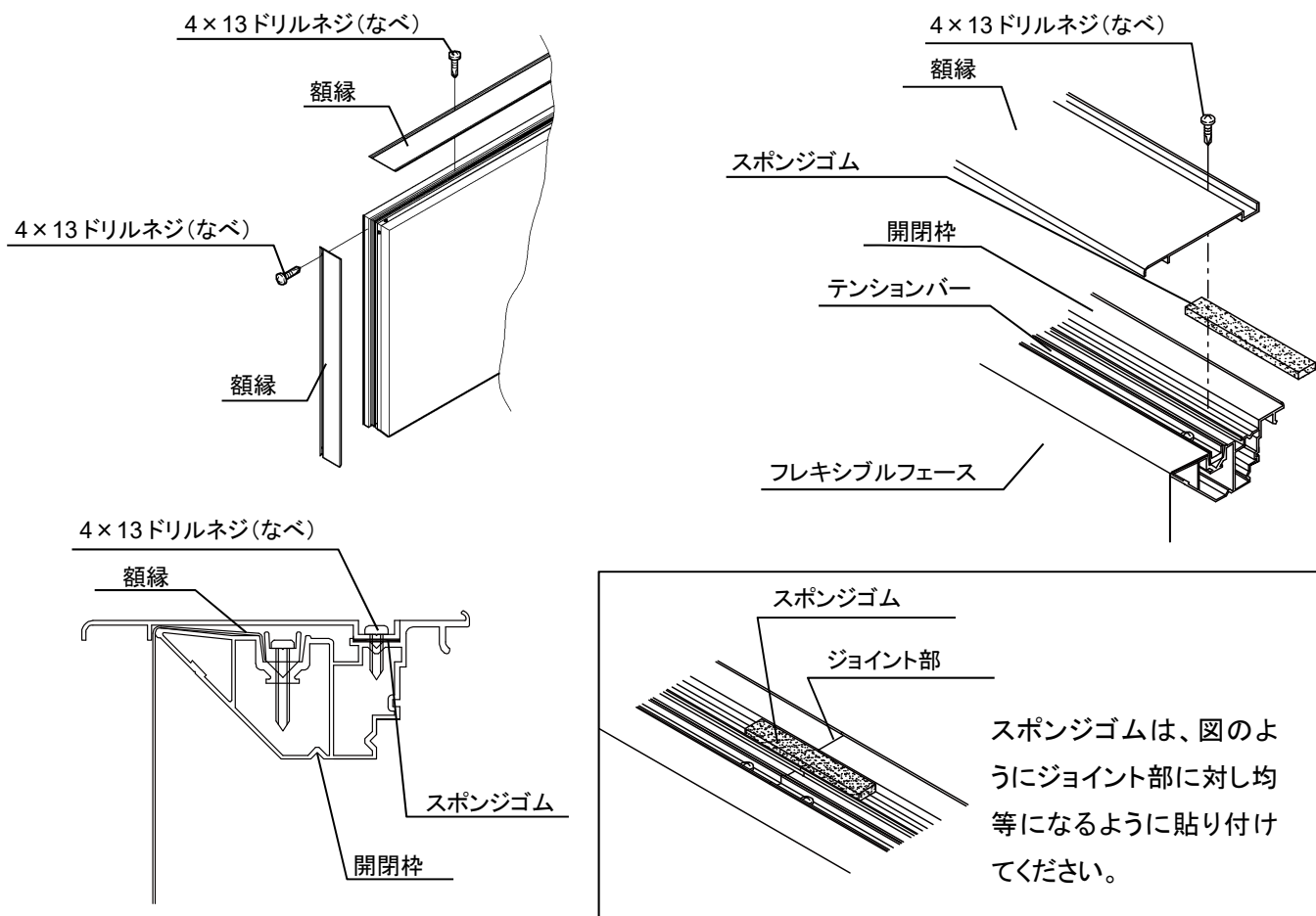


6. カット

- 額縁取り付けの際、額縁と開閉枠の間にはさみ込まない程度の位置で、フレキシブルフェースの端の余り部分を、はさみ等でカットしてください。

7 額縁の取り付け



額縁を、開閉枠の固定位置にセットし、4×13ドリルネジ(なべ)を使用して取り付けてください。

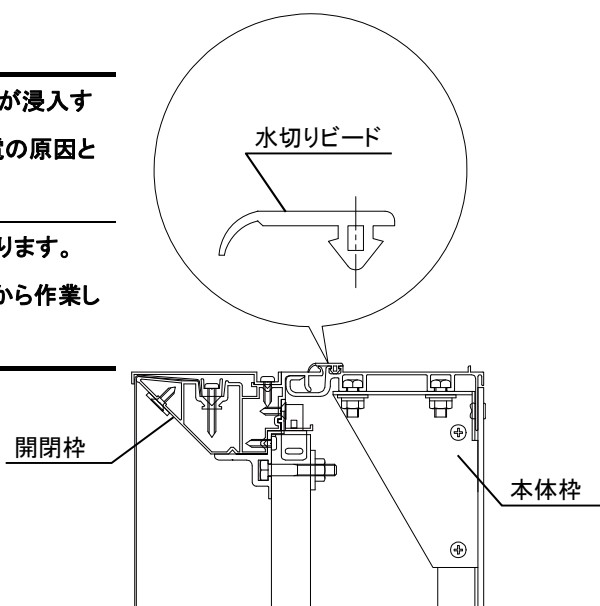


8 水切りビードの取り付け




開閉枠を本体枠にセット後、水切りビードを本体枠の挿入位置へ押し込んでください。

押し込みが終わった段階で、余分な部分をカットしてください。

 <p>注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水切りビードを取り付けないと、本体枠内部等に雨水が浸入する可能性があります。本体枠内部等を腐食させ、漏電の原因となります。
 <p>確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水切りビードの取り付けは、開閉枠の取り付け後となります。また、開閉枠をはずす場合は、水切りビードを外してから作業してください。

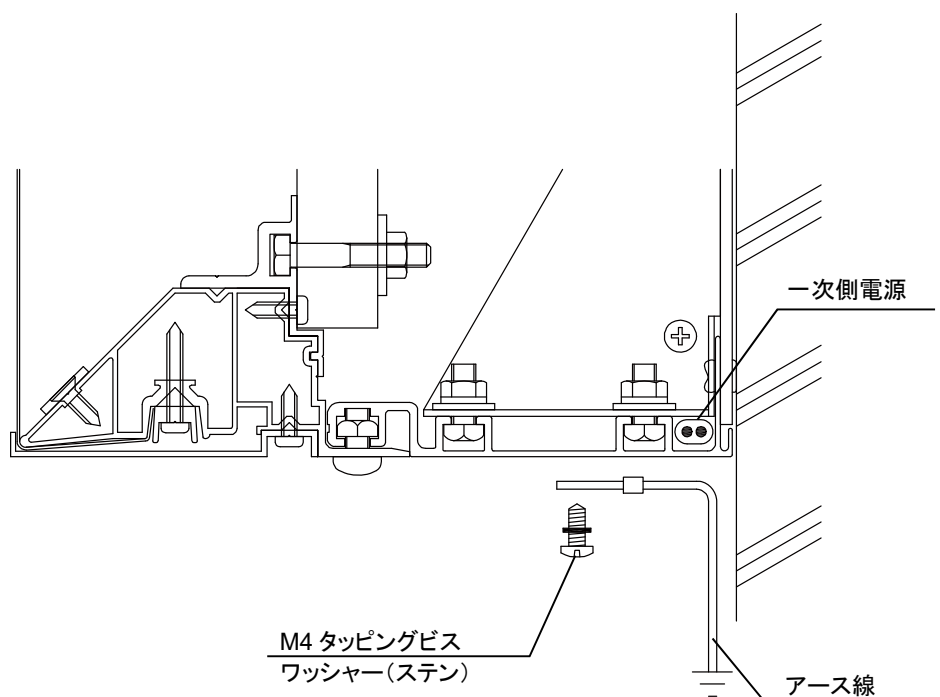


9 結線

 警告	• 結線工事は電気工事士の資格を持った技術者により、電気設備基準に準拠して行ってください。フレームから電線を出す場合、ゴムブッシングを使用し、電線の保護を行ってください。電線にキズを付けたり、挟み込んだ状態で使用すると、漏電・火災の原因となります。
 確認	• 看板への給電は仕様書に基づき、専用の漏電ブレーカーを設置してください。 看板側のトラブルが原因で、看板以外の電気製品に被害を与える場合があります。 また、火災の原因にもなります。
 確認	• アースは必ず設置してください。 結線終了後は必ず点灯、漏電のチェックを行ってください。

【作業手順】


1. 看板本体がジョイント式の場合、看板内部の結線および一次側電源の結線を行います。
2. 一次側電源を ON にし、点灯試験を行います。点灯しない場合は、必ず一次側電源を OFF にし、再度結線がされているか確認してください。
3. 電源コードがフレキシブルフェース面に接しないよう適所ごとに固定してください。
4. フレーム底面の適当な位置にアース端子接続用に M4 タッピングビス(ステンレス)を取り付け、アース線を使用しアースをとってください。

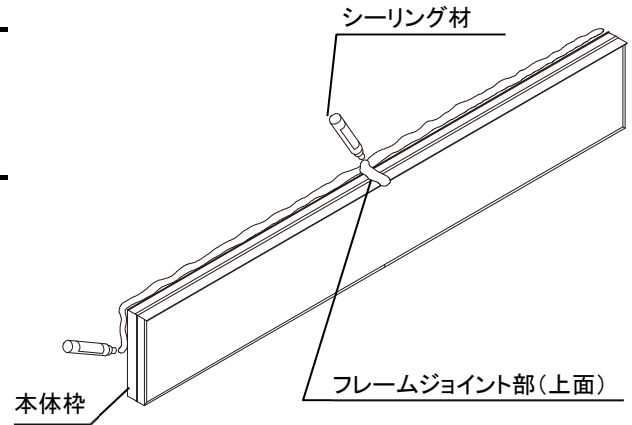


10 シーリング工事

【作業手順】

雨水浸入防止のため、躯体と本体枠(上面・側面)およびフレームジョイント部(上面)にシーリングを行ってください。




	注意 <ul style="list-style-type: none"> シーリングが不十分な場合、雨水の浸入により本体内部の各部品を腐食させ、漏電の原因となります。
---	---



11 メンテナンスについて




■ 蛍光灯の交換について

- 下部ロックネジ(M6×10 ビス(バインド))をはずし、開閉枠を開いてください。
- 支持棒固定用の蝶ナットをゆるめ、支持棒の先端を開閉枠裏面の支持棒受けへ差し込み、再度蝶ナットを締め付け、支持棒を固定してください。
- 蛍光灯は昼光色をお使いください。蛍光灯の交換と同時に、グロー球の交換もお勧めします。
- 完了後、支持棒を収納し、開閉枠を閉じ、ロックネジ(M6×10 ビス(バインド))をドライバーで完全に固定してください。



	警告 <ul style="list-style-type: none"> メンテナンスを行う際は、電源を切り、作業を行ってください。
	注意 <ul style="list-style-type: none"> 開閉枠の開閉作業を行う場合は、指などはさみ、けがをすることがありますので、十分に注意してください。
	注意 <ul style="list-style-type: none"> 支持棒の外れをふせぐため、蝶ナットは確実に締め付けてください。作業中、支持棒が外れる可能性がありますので、支持棒へは必要時以外は触れないでください。

■ 清掃について

- うすめた中性洗剤を含ませた、柔らかい布またはスポンジにより、表面の汚れを拭き取ってください。

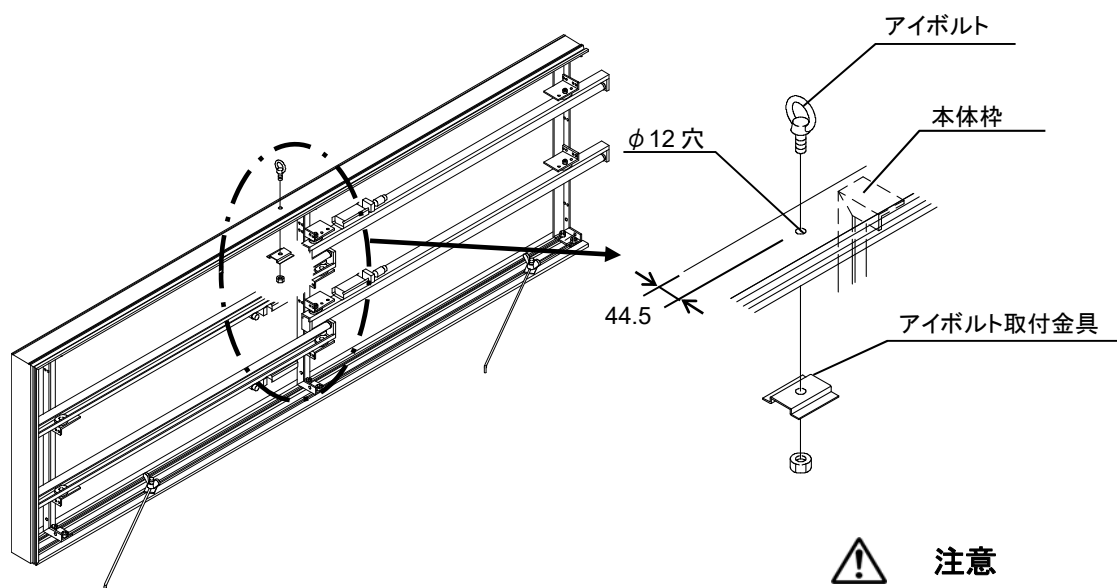
	禁止 <ul style="list-style-type: none"> フレーム内部には、直接水をかけないでください。漏電の原因となります。
	禁止 <ul style="list-style-type: none"> シンナー等の溶剤は使用しないでください。
	注意 <ul style="list-style-type: none"> 開閉枠および本体枠の内部を清掃する場合は、必ず電源を切って作業してください。

12 オプション品の使い方

 警告	• アイボルトを使用するときは、必ず本体枠補強付近に取り付けてください。 吊り上げ時、本体枠の変形、破損、脱落の原因となります。
 警告	• 本体枠に必要以上の負担がかかるため、連結後の吊り上げはしないでください。

【アイボルトセットの使い方】

アイボルト用の穴加工 ($\phi 12$) を行います。



注意

吊り位置はフレームの変形等考えられるため、必ず守ってください。

= MEMO =

= MEMO =

= MEMO =

●製品は改良のため、予告なしに仕様変更する場合がございます。予めご了承ください。

●製造元

 **三和サインワークス株式会社**

東京営業部 東京都港区港南2丁目15-1 (品川インターシティA棟30F)
〒108-6030 TEL (03) 5783-3001(代) FAX (03) 5783-3010(代)

大阪営業部 大阪市北区梅田3-1-3 (ノースゲートビルディング16F)
〒530-0001 TEL (06) 6453-3002(代) FAX (06) 6453-3022(代)

福岡営業所 福岡市博多区博多駅中央街7番21号 (紙与博多中央ビル9F)
〒812-0012 TEL (092) 472-7277(代) FAX (092) 472-7278(代)

京都工場 京都府綴喜郡宇治田原町大字岩山小字釜井谷1-44
〒610-0261 TEL (0774) 99-7702(代) FAX (0774) 99-7712(代)

埼玉工場 埼玉県入間市宮寺字宮ノ台4030 (武蔵工場団地内)
〒358-0014 TEL (04) 2934-5311(代) FAX (04) 2934-5313(代)

つくば工場 茨城県かすみがうら市加茂5289-1
〒300-0198 TEL (029) 828-1615(代) FAX (029) 828-1289(代)

ホームページアドレス

<http://www.sanwa-signworks.co.jp/>

メールアドレス

info@sanwa-signworks.co.jp